

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02634

研究課題名(和文)中国通俗歴史小説と戯曲の影響関係に関する研究 『春秋列国志伝』を中心に

研究課題名(英文)A Study of the influence relations in Chinese classical popular novel and drama

研究代表者

土屋 育子 (TSUCHIYA, Ikuko)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：30437800

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、春秋戦国時代を舞台とする通俗文学作品を対象に行ったものである。まず、明代戯曲の『趙氏孤児記』に関する研究である。本作品は、春秋時代の晋国で起きた趙氏一家惨殺からその復讐まで描いている。本作品には五種の版本が現存し、それらの継承関係について従来の説を改めることができた。次に中国戯曲に登場する女性像について、脇役という視点から明らかにすることを試みた。事例に引用した脇役の女性は、先の『趙氏孤児記』はじめ複数の戯曲から取り上げた。最後に、作品の特色を詳細に分析するための基礎的な作業として、脈望館抄本「楚昭公」雑劇の訳注作成を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては、中国戯曲では著名な作品の版本系統について従来の説を改め、当該作品を収録する戯曲集の編纂過程を明らかにする手がかりを得たこと、中国戯曲に登場する女性像について主役を取り上げた研究は多いが、応募者は登場人物同士の関係性を踏まえ、脇役が果たす役割に着目して分析を試みたことである。雑劇作品の訳注作成では、研究成果を広く社会に還元するため、平易な日本語訳を心掛けるとともに、基づく伝説や典故をわかりやすく注に記した。

研究成果の概要(英文)：This study intended for the popular literature work which assumed the Spring and Autumn period and Warring States Period.

At first I studied "Zhao shi gu er ji(the orphan story of Zhao family)" in Ming dynasty. This drama describes the story of revenge of Zhao's orphan. There are five versions of this drama, I pointed out that these version inheritance needs to be corrected. Then, I tried to clarify women's image in Chinese drama from a viewpoint of the supporting role. Finally we made the translation with notes of Chu Zhaogong zaji.

研究分野：中国文学

キーワード：中国戯曲 通俗文学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

これまで応募者は、中国古典戯曲を対象にして、版本間の継承関係を明らかにする研究を行ってきた。現存する中国古典戯曲の脚本は元代以降のものからになるが、出版業の隆盛により戯曲の出版も増加した明代中期以降、出版のたびに書肆が本文に手を加えることが常態化していたために、さまざまなバリエーションが生み出されることになった。応募者は、唯一最良の完成されたバージョンを求めるのではなく、まず基礎的研究として複数の版本の継承関係を明らかにすることが必要であるとの認識から、版本研究に取り組んできた。

先に応募者は、明末の17世紀に刊行された戯曲集『六十種曲』に収録される作品や、その編纂過程を明らかにする研究や、雑劇の作品の訳注作成を行ってきた。その過程で、『六十種曲』に収録される『八義記』や、雑劇の「趙氏孤児」、「楚昭公」、「介子推」など春秋戦国時代を舞台とする作品があり、これらと似た話柄が通俗小説『春秋列国志伝』にも見えることから、両者の比較が可能ではないかと考えたことが本研究課題を着想するに至った主な理由である。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、明代に刊行された春秋戦国時代を舞台とする通俗小説『春秋列国志伝』と、戯曲作品を主な研究対象として、作品間の関係や特徴を明らかにすることである。

春秋戦国時代は分裂の時代で、多くの国が互いに同盟したり反目したりを繰り返す過程でさまざまな話が伝えられ、豊富な題材を提供している。よって、この時代を舞台とする戯曲作品もかなりの数にのぼる。しかしながら内容の調査した結果、『春秋列国志伝』と戯曲とは由来を異にし、直接的な関係を見いだしがたいことから、両者の差異を指摘するだけでなく、個別の戯曲作品について分析・考察を行い特徴を明らかにすることに重点を置くこととした。

春秋戦国時代を扱う通俗文学作品の特色とはなにか、またどのように戯曲化されているのかについて、『春秋列国志伝』との相違を視野に入れつつ研究することを目的とする。

### 3. 研究の方法

まず、『春秋列国志伝』の各巻と、現存する戯曲との対応状況を調査した。

次に、個別の作品で比較調査を行い、版本の系統関係を明らかにするとともに、当該作品が収録される戯曲集の編纂過程を解明する一助とする。

さらに、版本調査の過程で見えてきた戯曲登場人物の特徴について、これまでの応募者の研究内容と今回の調査結果を総合する形で考察を行う。これは基礎的研究の版本研究を行った、次の段階としての位置づけで進めるものである。

作品自体を詳細に検討するため、また研究成果を広くわかりやすく公表するために、戯曲の訳注作業も同時に行う。

### 4. 研究成果

(1) 土屋育子「明代伝奇『趙氏孤児記』について」(『集刊東洋学』(中国文史哲研究会)第119号 41-60頁 2018年6月)

『趙氏孤児記』またの名を『八義記』は、明代に成立した伝奇(戯曲)である。本事は、『春秋左氏伝』や『史記』などにある程度まとまった形で記されている。舞台は春秋時代、趙家が一族皆殺しに遭い、唯一の生き残りの孤児が、周囲の人々の援助と犠牲によって生き延び、成人したのち復讐を遂げるという物語である。

宋元期には戯曲に仕立てられ(明・徐渭『南詞叙録』「宋元旧篇」の記述)、元代の雑劇が現存している(元刊雑劇三十種の一つ「趙氏孤児」)。明代に、本稿で取り上げた『趙氏孤児記』が登場する。この『趙氏孤児記』については、先行研究によって「趙氏孤児」雑劇との類似箇所を指摘されており、宋元期の戯曲を元に改編されたものであることは間違いない。

先行研究では、『趙氏孤児記』の版本系統を二つの系統に分類する。すなわち、節略本ではあるが最も刊行が早い風月本(一五五三年)と、これに近い本文を持つとされる富春堂本・世徳堂本(いずれも万暦年間刊)が一つの系統、明末に刊行された汲古閣本と清代の鈔本などがもう一つの系統をなすという見解である。言い換えれば、共通する祖本を想定、そこから分岐したとして、古い本文を持つ世徳堂本等の版本の系統と、改変を加えた汲古閣本等の版本の系統の二系統を想定するのである。しかし、この指摘に問題がないわけではない。応募者は、汲古閣本と清代の鈔本とが深い関係を持つという指摘に対して異論はないが、明刊本の関係についてはまだなお検討の余地があると考えた。それは、いずれの先行研究も比較が一部に止まること、愈為民氏論文では曲譜収録の曲文と完本との比較に重点があり、完本間の継承関係に関する考察は十分とは言えないこと、風月本との比較に至っては本文の分析は行われていないこと等の問題が指摘できるからである。

そこで本稿では、如上の観点から風月本を始めとする明刊本を中心に、散齋を集めた戯曲集も検討対象に加え、現存の明刊『趙氏孤児記』版本間の継承関係について明らかにすることを目的とした。

現存する版本を調査した結果は以下の通りである。『趙氏孤児記』の版本の関係について、従来は風月本・富春堂本・世徳堂本を一つの系統、汲古閣本・清鈔本などを別の系統とされてきた。本稿では、風月本と完本との異同を詳細に調査することで、完本間の関係、とりわけ汲古閣本がどのようなテキストに基づいて改編を行っているかという点について考察した。その結果、風月本と富春堂本・世徳堂本が近い関係にあることは確かにそう言えるであるが、風月本が富春堂本と異同を生じている箇所では、風月本は汲古閣本と一致する例が複数見られた。そればかりでなく、汲古閣本に先立つ散齎集の『群音類選』・『酔怡情』収録テキストにおいて、風月本・汲古閣本の本文に近い箇所が散見された。以上をまとめると、汲古閣本は現存しないテキストに依拠しつつ、それを改編して成立したテキストであるとの結論を得た。

なおこれは、2017年9月におこなった学会発表（土屋育子「『趙氏孤児記』と『八義記』について」2017年度中国古典小説研究会大会 2017年9月6日）に基づき、改訂・編集したものである。

(2) 土屋育子「しゃべる女諫める女 - 中国戯曲の女性たち -」（『集刊東洋学』第122号、2020年2月）

中国の伝統演劇における女性の役柄「旦」は、元刊雜劇ですでに使用が認められ、主役の「正旦」のほか、「小旦」「老旦」等の脇役の役柄も登場することがある。明代の戯曲では、脇役に「貼旦（貼または占とも）」という役柄も使われている。近現代の人で梅蘭芳のプレーンでもあった齊如山（1875-1962）の統計によれば、「旦」は三十余种に細分化されるという。

本稿では、脇役の女性たちに焦点を当て、特に貼旦が演じる人物について重点的に分析を試みた。演劇に限らず小説などでも、主人公が直面する問題の原因、あるいは主人公が困難を脱する機縁は脇役が担っており、脇役は物語の進行上必要不可欠な構成要素となっていると言える。これが、脇役に着目するゆえんである。

中国の伝統演劇における脇役の女性が担う役割を明らかにするために、代表的な作品から脇役の女性が登場する場面を取り上げて分析した。

たとえば『八義記』は、趙氏の唯一の生き残りである孤児を守るために、多くの人々が犠牲となる過程が見どころの一つだが、ここでは犠牲となった人々ではなく、悪役屠岸賈にかかわる人物である屠岸賈の妻屠夫人に着目し、屠夫人が初めて登場するのは、第七齣「猜忌趙宣」である。まず屠岸賈が登場、自らが権勢を一手に握っていると誇らしげに述べた後、ただ官位が趙盾より低いことが不満だ、妻と相談してみようと言って、妻の登場を促す。『八義記』の屠夫人は、一貫して夫を諫め続けている。夫を悔い改めさせることはできなかったが、終幕でその努力は報われることになった。夫が誤った行いをしたとき、妻がそれを諫める行為は肯定されうことを示していよう。『列女伝』巻二賢明伝などにも夫を諫める話が収められていることを思い起こせば、むしろあるべき妻の姿の一つと認識されていたのであろう。

本稿では、「貼旦」が演じる女性役を中心に、それぞれの人物形象がうがかえる場面を抽出し、分析を試みた。『西廂記』の紅娘は主人公二人を結びつける役回りだが、阻止しようとする老夫人と、それぞれ対照的な役割を担うことで、物語に複雑な展開を生み出している。老夫人に言葉で反論を試み、相手の説得に成功する。『琵琶記』の牛氏は、夫と故郷に残された家族のために、父親を説得する。夫を訪ねてきた五娘と夫が再会する仲介をするのも、牛氏である。『鳴鳳記』の陸姑は類型化した物語の枠組みを使っている可能性は否めないが、敵側の人間にもかかわらず、自らの判断によって窮地にある人を救っている。『精忠記』の秦檜の妻王氏は、岳飛父子を陥れる謀略を積極的に秦檜に進言する。金国との密約というくびきから逃れることのできない秦檜夫妻の場合は、夫が金国の要求にうろたえ、妻が次々と謀略を実行させることを繰り返す。金国の命令に脅え妻のいいなりになることしか出来ぬ秦檜と、岳飛父子迫害に執念を燃やす王氏の姿が対照的に強調される。

最後に、日本の伝統演劇における女性像とも比較した。浄瑠璃『御所桜堀川夜討』では、かつて一夜の契りを結んだ弁慶にその娘を殺されるおわさという女性が登場するが、彼女のクドキは娘を失った悲嘆に主眼が置かれている。中国戯曲における脇役の女性とは異なる役割・性格を賦与されているとみるべきであろう。

中国戯曲における脇役の女性は、しばしば状況を変えるために、言葉を尽くして相手を説得しようとする。現状にとどまるのではなく、打開するにはどうしたらよいか、説得する相手のことも気遣いつつ、言葉を選び、自らの思いを語るのである。今後より詳細に検討し、脇役の女性の特徴および作者と受容者のまなざしを明らかにすることが課題である。

(3) 土屋育子・高崎駿士・堀川慎吾・室貴明「脈望館鈔本「楚昭公疎者下船」雜劇訳注稿（前篇）」（『東北大学文学研究科研究年報』第69号、104(177)-82(199)頁、2020年3月）

「楚昭公疎者下船」雑劇は、脈望館鈔古今雑劇の一つであり、本稿は該書を底本として、日本語訳と注釈を施したものである。脈望館鈔本とは、明代後期の趙琦美（1563-1624）が、宮廷内の戯曲台本を入手、抄写したテキストである。作品の特色を詳細に分析するための基礎的な作業として、脈望館抄本「楚昭公疎者下船」雑劇の訳注作成を行った。

本作品は『春秋左氏伝』や『史記』などに見える記述に基づく戯曲であるが、歴史書の記述だけでなく、『呉越春秋』『越絶書』など伝説的な要素を多く取り入れることによって演劇化されている。具体的には、物語の発端として宝剣伝説、孫武の故事、伍子胥の故事が豊富に盛り込まれている。小説の『春秋列国志伝』にも宝剣伝説が登場するが、それは呉の公子姫光（のちの呉王闔閭）が呉王僚暗殺の謀略を練る場面で言及されるに止まる。ところが、「楚昭公疎者下船」雑劇では宝剣伝説への言及があったのち、その宝剣が呉国から楚国へ飛んでいったため、呉国が返還を求めたが、楚の昭公が断ったことから楚国侵攻が決定することが第一幕で展開する。演劇が伝説的要素を十分に取り入れることで、おそらくは観客を興味をそそる内容を目指していたと推測される。このように作品の特徴をより詳細に明らかにするために、訳注作成という基礎的研究に取り組むことにした次第である。来年度は後篇を公表する予定で、作業を進めている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 土屋育子	4. 巻 119
2. 論文標題 明代伝奇『趙氏孤児記』について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 集刊東洋学	6. 最初と最後の頁 41～60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋育子	4. 巻 122
2. 論文標題 しゃべる女諫める女 - 中国戯曲の女性たち -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 集刊東洋学	6. 最初と最後の頁 62-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋育子・高崎駿士・堀川慎吾・室貴明	4. 巻 69
2. 論文標題 脈望館鈔本「楚昭公疎者下船」雑劇訳注稿（前篇）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東北大学文学研究科研究年報	6. 最初と最後の頁 177-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 土屋育子
2. 発表標題 『趙氏孤児記』と『八義記』について
3. 学会等名 2017年度 中国古典小説研究会 大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----